



# 自立活動だより No.7

令和6年3月8日

自立活動部



## 自立活動 ～小学部4年生の取り組み～

本校では各学部とも「自立活動」の時間が設定されています。原則は学部や学年、クラス単位で実施しますが、特に聴覚に関わる分野については聴覚支援担当が実施することがあります。今年度は小学部4年生である程度まとまった時間を確保していただき出前授業を実施しました。

**第1部**として、自分の聴力について学習しました。本校では毎学期1回ずつ聴力検査を実施していますが、その後もらうオーディオグラムについて学び、オーディオグラムから自分の聴力がどれくらいなのかを読み取る練習をしました。オーディオグラムについてよく知っている子もいれば、何となくわかるけど・・・という自信なさそうな子もいましたが、今回の学習でしっかり理解できたのではないかと思います。オーディオグラムが読めるようになったら、次は書く練習です。「○○Hzの聴力は△△dBだから、ここに○を付ける」「左耳は×だったな」など、読み取り練習の時よりも楽しそうで、また理解も早いと感じました。全員が正しくオーディオグラムを書くことができていました。次に学習したのは「平均聴力」です。自分の聞こえを相手に伝えるときに使いますが、その計算方法について学びました。自分の聴力表を見て、ワークシートに数字を当てはめて計算をする形だったので、大変な計算もスムーズにできていました。聴力の学習はどうしても座学になりがちで、今回も少し難しい学習でしたが、みんな熱心に取り組んでいる姿が印象的でした。

小4自立活動 算数

平均聴力を計算してみよう！

<計算式>

$$\frac{500\text{Hzの聴力} + (1000\text{Hzの聴力} \times 2) + 2000\text{Hzの聴力}}{4}$$

<計算例>

$$= \frac{\square + \square \times 2 + \square}{4}$$

$$= \frac{\square + \square + \square}{4}$$

$$= \frac{\square}{4} = \square \div 4 = \square$$

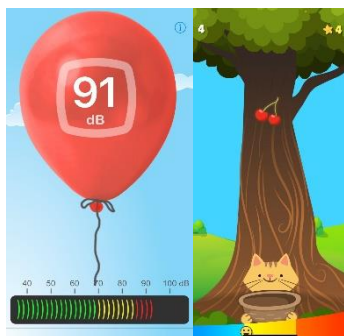
<計算問題>

$$= \frac{\square + \square \times 2 + \square}{4}$$

$$= \frac{\square + \square + \square}{4}$$

$$= \frac{\square}{4} = \square \div 4 = \square$$

平均聴力計算ワークシート



左：NoiseLevel (100円)  
右：こえキャッチ (無料)

第2部では、補聴器やイヤーマールドの管理、様々な音に触れる、声量の調整をするなどの学習を行いました。声を大きくしたり小さくしたりすることで果物をゲットするアプリ（こえキャッチ）や、様々な声や音を聞いて何かを当てるクイズなどで楽しみました。ここでは体を動かしたり声を出したり、終始リラックスした雰囲気です。授業が進みました。音の聞き分けや調整はもちろん大切ですし、このクラスの児童は全員補聴器を装着しているため、様々な音や声に触れてほしいという教員側の願いがあります。しかし聞こえ方は人それぞれなので、もちろんうまくできない時もあります。その時に、「聞こえるのがいいんだ！」や「聞こえないのがいいんだ！」と比べるのではなく、「みんな違ってみんないいんだ！」という気持ちを持ってほしいという願いもまたあります。聞こえに関する知識や技能だけを学ぶのではなく、他者を思いやり認めたりする気持ちを育てることも自立活動の一環として考えています。



綿棒を使って補聴器の掃除をしました

**そ**して第3部では、ロジャー体験とセルフアドボカシーについて学びました。ロジャーとは補聴器会社（フォナック）が出している補聴援助システムで、マイクを通してダイレクトに補聴器

## 家庭数配付

に声が届くものです。今回は体験だけではなく、どれくらいの距離まで声が届くのか実験も行いました。50mのメジャーで距離を測りながら少しずつ離れて行って…。なんと、30mの距離でも聞こえることがわかりました。フォナックのホームページによると、ロジャーマイクの適用範囲は25mとあるので、ほぼ同じ結果になりました。距離が離れていてもクリアに聞こえることに、ロジャー初体験の児童は驚いていました。セルフアドボカシーの授業では、「わたしのトリセツ」を行いました。NPO 法人 Silent Voice が作成した「聞こえの説明書」をもとに、わたしってどんな人なのか、聞こえのことを含めて周りの人に説明できる「トリセツ」を作りました。特に聞こえについては自分で説明できるようにならなければいけません。小学部時代はまだそこまで説明の機会はないかもしれませんが、中高生になり、進路を考える頃には必要になる力です。自分の聞こえと向き合い、どのような支援や配慮が必要なのかを適切に相手に伝えるため、それぞれ真剣に考えて作っている様子がありました。この学習では、保護者の方にもお子さんと一緒に「聞こえの説明書」作成のご協力をいただき、ありがとうございました。聞こえに関しては児童生徒本人や保護者の方の考えは様々だと思いますが、今回取り組んだ学習を、児童生徒の実態に合わせ少しずつ変えながら他学部でも実施していきたいと考えています。今後ともご理解ご協力をお願いします。



ロジャーはどこまで聞こえるかな？



自分のきこえについて学びました

## セルフアドボカシーとは？

1989年に国連で採択された「子供の権利条約」や2016年に改正された「児童福祉法」に定められている「自己の意見表明の権利」を守るために必要な力や活動のことです。何か支援が必要な時に、周りの人が気づくまで黙っているのではなく、自分の状況（本校生の場合は聞こえについて）を正しく説明することで適切な支援（合理的配慮）を受けられます。セルフアドボカシーの一つの方法として、自分の状況についての説明書である「自分のトリセツ」も広まっています。

どうやって権利を守るの？

子どもの年齢や住んでいる場所、障害の有無に関わらず子どもの権利を守る取り組みや条約・法律で子どもの権利は保証されています。  
みなさんにも権利を主張したり必要な支援を求めたりする力があります。

**セルフアドボカシー**  
自分自身で権利、利益、ニーズを主張すること。  
障害があっても、意見が尊重され、最善の利益が考慮されるための支援や自身の意見が代弁される権利です。

セルフアドボカシー(自己権利擁護)

自分の意見を他の人に伝えたり、自分で選んだりする権利を守るためには、自分自身の苦手なことや必要な支援を知っていること。それを他の人に自分自身で伝えていくことも大切です。

セルフアドボカシーは…

- 自分に必要なサポートを自分で周りの人に説明して理解してもらって活動のこと。
- どういうサポートが必要か伝えるときは、その理由も説明しよう。
- セルフアドボカシーは平等に挑戦していくためのもの。

国立成育医療研究センターのHPより抜粋  
(昨年度の自立活動だよりより再掲)